

第1回泉大津市環境保全審議会 議事録

日時：令和2年12月21日（月）午前10時～11時半

場所：テクスピア大阪402会議室

参加者：巖 圭介 桃山学院大学副学長、社会学部教授
竹中 規訓 公立大学法人大阪 大阪府立大学大学院
人間社会システム科学研究科教授
田中 晃代 近畿大学総合社会学部環境まちづくり系専攻准教授
長谷川路子 追手門学院大学経済学部経済学科講師
水谷 聡 公立大学法人大阪 大阪市立大学
工学部都市学科都市リサイクル工学分野准教授

（事務局）

南出 賢一 泉大津市長
藤原 一樹 泉大津市都市政策部長
貴志 泰章 泉大津市都市政策部環境課長
近藤 陽子 泉大津市都市政策部環境課課長補佐
甲村 光 泉大津市都市政策部環境課環境推進係長
津村 和幸 泉大津市都市政策部環境課主査
新谷 隆 泉大津市都市政策部環境課

議事次第

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 委嘱状交付
4. 委員紹介
5. 会長・副会長選出
6. 会長挨拶
7. 諮問について
8. 計画の策定について
9. 閉会

1. 開会（環境課 近藤課長補佐）

2. 市長挨拶

- ・第3次環境基本計画の策定ということで、委員の皆様からご助言をいただきたい。
- ・今、世界的な異常気象で、猛暑、早魃、コロナ、台風大接近などが起きている。
- ・自然界に生きるしかないということを忘れず、どうしたら自然との共生していけるかということは今一度立ち返りながら、どうまちづくりを進めるか考えていかないといけない。その意味で、実効性ある計画をしっかりと作っていきたいと考えている。
- ・先の菅総理の所信表明において、経済と環境との好循環ということで、グリーン社会の実現に向けて、2050年には温室効果ガスの排出を実質ゼロにするという表明もされた。
- ・泉大津市はこれに先立って気候非常事態宣言、ゼロカーボンシティの宣言を行い、市民への強いメッセージとともに、まちをどうしていくかしっかりと考えていきたい。
- ・温室効果ガスの排出削減に向けた再生可能エネルギー、新技術、自然科学の力を活かした取り組みにも力を入れていきたい。
- ・緑をふやす、食糧問題は喫緊、これらも計画に反映をさせながら策定していききたいので、忌憚のないご意見をいただきたい。

3. 資料の確認および委嘱状交付

- ・委嘱状は配布のとおり

4. 委員紹介

- ・巖委員 もともと昆虫生態学が専門、今は環境教育
- ・竹中委員 専門は大気化学 1985年から泉大津市の大気の調査をやってきた
- ・田中委員 都市計画、まちづくりが専門 地域の活性化、バランスのとれたまちを作っていきたい
- ・長谷川委員 専門は環境資源、環境配慮方針など
- ・水谷委員 専門はごみの適正処理とリサイクル、化学物質管理

→委員5名全員出席のため、本審議会は成立している。

5. 6. 会長・副会長選出、会長挨拶

- ・巖委員より竹中委員を会長に推薦
- ・異議はなく、竹中委員が会長に選出
- ・竹中会長挨拶

1985年からまちの移り変わりも見てきた。前回の環境基本計画では協議会の方で携わった。コロナ禍で厳しい状況であるが、過去にも病気を乗り越えてきた歴史がある。このような経験も踏まえて、新たな計画を実効可能なものにしていきたい。

- ・竹中会長より田中委員を副会長に推薦
- ・異議はなく、田中委員が副会長に選出
- ・田中副会長挨拶

20年前にもワークショップで4つのグループに分かれて環境基本計画を策定した経緯がある。そのなかで、「豊かなところ」というのは大事なキーワードと思っている。

7. 諮問について

- ・市長から竹中会長に諮問文（資料1）交付

8. 計画の策定について

①計画策定の趣旨・スケジュールについて

②泉大津市における環境データ等の推移について

- ・事務局より、資料3-1、資料4により説明

（長谷川委員）

公害苦情件数で騒音、悪臭が多いがその原因は何か。

（事務局）

騒音はまちなかの事業所や工場の作業環境による。昔は周辺に住宅がなかったが、住宅と隣合わせになってきて苦情がでてくる。悪臭は、し尿汲み取り、浄化槽の管理の関係で臭いが出る。

（水谷委員）

一般廃棄物について、1人1日当たりの排出量は、事業系のごみが入って1kgぐらいと思うがいかがか。

（事務局）

確認し報告する。

（巖委員）

人口は減っているが、住宅は増えているのか。

（事務局）

世帯数は増えている。

（田中委員）

土地利用で、雑種地その他が30%ぐらいあるが、具体的には何か。

（事務局）

宅地でない工場用地とか空地とかと思う。調べてみる。

（竹中委員）

グラフの示し方によるのかもしれないが、人口が減ってきているのに、水道供給量がほぼ横ばいなのはなぜか。

ガスの使用量で家庭用以外が急に大きくなっているのはなぜか。

（事務局）

総使用量は事業所の分が含まれているからではないかと思う。←座標軸を修正した方がいいか？

ガスは平成28年度からガス自由化により公表方法が変わったことによる。

③市民アンケート調査について

④現行計画の点検・評価について

- ・事務局より、資料 5、資料 6-1 により説明
- ・現計画では、事業の進捗やその効果を定量的に評価できる指標が一部に限られていたため十分な評価は困難だった。次計画では、計画の進行管理をしやすくするための評価指標を設定する必要がある。また、市民や事業者の取組みの指標も盛り込んだ計画にする必要がある。環境施策はすぐに成果が出るものばかりではないが、今後もより一層、市民、事業者理解してもらえるように、項目ごとに精査し、今まで行ってきたことを見直し、次期計画の策定に向けて検討していきたい。

(田中委員)

アンケートを実施されたが、市民による環境活動など関心度がかなり低くなっている。コロナで影響があったという見方ができるのかどうか。

(事務局)

コロナの影響で、通年行っていたイベントができなくなり、市の取組み等の啓発が十分に行えなかった。本来であれば「気候非常事態宣言」「ゼロカーボンシティ」等の啓発もイベントを通じて行いたかったが、コロナの影響でそれができていない。(追加)

その代わりにスマートホンの啓発アプリを開発し 10 月から公開したところだが、市として動きにくいということはある。今後、アプリも充実していきたいと思っている。

(追加)

(田中委員)

そういうことがアンケートの結果に影響を及ぼしている可能性があるのかなと懸念する。コロナがなければ、もう少し数値が上がっていたのではないかと。単純に過去のアンケートの結果と比較するのは気を付けた方がいい。

(竹中委員)

私も質問しようと思っていた。コロナの影響でイベントが中止になったことで、「気候非常事態宣言」等の啓発もできなかったため、アンケート結果の環境情報の入手の評価が低かったのも、理解した。通常のイベント等で、あまり啓発で伝えられなかったということの影響があるのかもしれない。

(巖委員)

水のきれいさの満足度が上がっているが、これは川か海か。どちらに市民の関心があるのか。

(事務局)

海は近いと言ったら近いが、港湾部で工場があり近づきにくい。どちらかと言ったら河川。市内には水路も多くあって、それらの水もきれいな状況を保てるようになってきている。大津川の水質もよくなってきている。

(竹中委員)

確かに大津川はきれいになってきているように思う。ただ、何年か前に調査した際に、夜中に着色水を放流されたことがあり、データ上は出てこないが、その辺は注意してもらった方がいい。

(長谷川委員)

未実施が9項目あるが、何が未実施か教えてほしい。

(事務局)

サイクルシェアリングの検討を挙げていたが調査中ということで未実施。フェニックスにおける水辺の創出や臨海部のピオトープの整備・活用は大阪府の管轄になり未実施。グリーン配送も費用対効果など調査中で未実施。エコ燃料の利用促進はまだ整理がされておらず未実施。

(竹中委員)

未実施については、まとめてもらった方がいい。エコ燃料は電池の時代になったらどうなっていくのかと思う。

評価指標を作ると聞いたが、結構難しいと思う。具体的にどのような指標を作る予定か。

(事務局)

アンケートに基づく満足度とか考えられる。数値的に出てくるものは、実際の削減量などが考えられるが、なかなか難しい。それと、活動実績なども考えている。

⑤環境基本計画の現状及び課題について

- ・事務局により、資料7に基づき説明
- ・今まで、原燃料の使用量から積上げる方法をとっていたが、電力・ガスの自由化に伴いデータ入手が困難になってきており実績値がつかめない状況になっている。そのため、国が全国自治体向けに算出している排出量カルテから判断していくしかない。
- ・2020年度の削減目標に近いところまで来ており、市民アンケートからも一定成果は上がってきているものと考えている。
- ・課題となるのは、排出量の多い民間事業者への啓発と市民意識の向上と考えている。
- ・次期計画の策定においては、今までの取組の継続と見直しを行い、2050年の排出量実質ゼロに向けた取組みを行っていきたいと考えている。温室効果ガスの削減については、環境省の算定データにより確認していきたい。

(巖委員)

使用量データが得られなくなり、国も対応を検討しているとのことだが、何がそんなに進まないのかがよくわからない。

(事務局)

いろいろ問い合わせもしているが、新電力会社としては、総量は出せても、地域ごと、市町村ごとのデータはいちいち取ってられない、難しいということらしい。電力の自由

化は経産省、排出量は環境省ということで、数値をほしいといっても出せないという答えになっている。

(竹中委員)

国が温暖化対策を進めるのなら、法律で義務化しないとだめだろう。どちらかというところの問題という気がする。

CO2排出ゼロという話だが、どうしても化石燃料を使わざるをえないものがある。農業機械、船舶などバイオディーゼルにしなければいけないのかもしれないが、その辺も考えていかないといけないと思うが、計画に入れていくことはできるか。

(長谷川委員)

2020年度単純将来と2020年度目標将来はどう違うのか。

(事務局)

前の地域推進計画を立てたとき、現状の排出量をそのまま人口推移や事業所の伸びなどで伸ばしていくと単純将来、それに対して25%削減ということで目標将来を出している。

(長谷川委員)

まちの将来を考える場合、部門ごとの内訳をどのように考えたか。部門ごとに2017年実績を見た場合、実績値と計画値とのかい離が大きい。

(事務局)

地域推進計画では実績の積み上げの数字から推移をみているのに対して、カルテは国の総量から、地域補正もかけているだろうが、人口按分などで、家庭部門の数字を出していると思う。

(竹中委員)

熱中症対策でエアコンを使えという話も出ており、それで家庭部門の排出量が増えてきていることもあるかもしれない、難しいところである。

(田中委員)

この10年、スマート化と暮らし方、住まい方、変わってきていると思う。それに合わせて、数値も変わってきているのではないか。暮らしとか住まいとかの変遷を押さえておかなければならないことかと思う。泉大津市の一番の特徴は「コンパクトなまち」というところかと思っていて、車利用がどのくらいなのか。自転車の利用が結構多いという印象があって、市民はそれなりの配慮はしていると思うが、産業というところはどうか、動向を知りたい。

(竹中委員)

産業部門は気になるところ。不景気で、つぶれてもらっても困るが、内容はしっかり調べておかないといけない。

(巖委員)

次の計画の策定にあたり意見を言わないといけないと思うが、何も言えていない。どう

いう話が役に立つのか、何かないかと思ってしまった。第2期計画でもいろいろなことをやっている、画期的な次のステップは難しい。しかもCO2排出ゼロとなると。市単位でできることって限られてしまう。省エネとかリサイクルとかいうこと、ちびちびやっても届かない。どういうところが大きく改定可能なのか。

(竹中委員)

マイクロプラスチックの問題はCO2排出ゼロに繋がる。

(長谷川委員)

宅配において再配達が増えてCO2の排出に影響を与えている。置き配用のバックを利用するとか、グリーンカーボンといって、アマモなど水生生物を利用してCO2を吸収することなども考えられる。地域循環共生圏の話が出ていたが、流域で協力しあって環境を改善していくという話も多い。泉大津市にとって上流の市町村とはどこになるか。

(事務局)

上流域は大部分が和泉市。一部が岸和田市になる。

(長谷川委員)

森林とか利用できるのか。

(事務局)

和泉山系の森林、そこを水源として、途中ため池など経由して、水が降りてきている。

(長谷川委員)

森林管理が行き届いてない状況にあり、それをまかなうために、企業の森林という形で、森林組合などに資金を出してもらおう。企業側からみるとCO2の排出削減に貢献していることになる。

(竹中委員)

海の方はどうか。

(事務局)

漁港は1か所。港湾地区で自然豊かな状況にはない。大阪府と協力してフェニックスという埋立地を作っているが、そのなかに親水空間を作ること考えており、市民がなごめる空間に使えないか、釣公園にするとか、イベントなど。大津川に面した親水空間になるが、フェニックス事業が終わるときを目指して、できることをいろいろ検討している。

(竹中委員)

植樹をするとかの話はなかったか。

(事務局)

植樹とかイベント会場を芝生広場にするとかも考えている。

(竹中委員)

アクセスが問題という話もなかったか。

(事務局)

遠い。臨海線からまだ6kmある。

(水谷委員)

防災計画は環境基本計画とは別なものか。廃棄物の観点でいうと、災害が起こると桁違いのごみが出てくる。計画期間に災害があってもトータルでごみを減らしていくとか、災害廃棄物になるようなものは減らすライフスタイルにしていくことで、災害が起こっても環境負荷が抑えるということも考えないといけないのではないか。

(事務局)

基本的には防災計画の対応になるが、環境基本計画においても、起きた時の対応、ごみが氾濫しないようにするとか、影響が少ないように、また自分の命をどのように守るか、適応策という部分で入れていくのかと考えている。

(田中委員)

生徒からアンケートを取った、これだけ回答が得られた、自由記述でもいろんな意見が出ているということは画期的と思う。環境教育を熱心にやってきた成果ではないかと思う。先駆的な取り組みも大事だが、地道に環境教育を受け継いでいくということも大事と感じた

(竹中委員)

今日出た意見を参考に、次回には具体的な計画案を用意してもらえればよいと思う。

9. 閉会

数値の間違いとか十分に答えられなかったことについては、確認して報告させてもらう。

次回は来年9月か10月頃を予定している。